

渡航者ワクチン接種後の注意事項（*輸入ワクチン） 2020

今日は、息切れするような激しい運動は避けてください。入浴はかまいません。
明日は、熱もなく体調さえ良ければ、運動や入浴など普段と同じ生活で結構です。
これらの不活化ワクチンの後は、1週間以上あけて他の種類の予防接種をしてください。

【破傷風ワクチン（Tetanus toxoid）、Tdap*について】（昭和43年以前の生まれ） 副反応

初回接種の時は約1週間後に、2回目以降では2～3日後に接種部位が赤く腫れ、かゆくなるのが稀にあります。2～3日で消失しますので心配はありません。大きく腫れたら湿布してください。次回受診時に教えてください。

有効性

このワクチンは、1回だけでは効果がありません。約4週間後に2回目を、約1年後（6カ月以上2年以内）に3回目を追加接種する。3回の基礎免疫で約10年間有効です。この3回目はDPT三種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風）で追加すると他の2種類にも効果があり有利。あるいは初年度の2回の片方をTdap（輸入の成人用DPT）で接種する。海外渡航などで時間に余裕のない時は2回の接種で出発し、一時帰国時などに追加接種してください。1回だけでも接種しておけば怪我をした時の緊急の処置に有利です。2回接種すれば約2年間は効果が期待できます。1回で行くときは現地での追加を計画ください。

備考

昭和43年以前に生まれた方は、子どもの頃に接種していないので接種した方が安全です。当時はジフテリアと百日咳のDP2種混合での接種でした。破傷風は世界中に広く分布しているため、成人の海外渡航者にとって破傷風の免疫維持は大切です。海外では破傷風単独だけでは有効でないため、百日咳を含んだDPTまたはTdapを初年度の2回のどちらかに加えます。昭和44年4月以降接種のDPT世代の方は、DPTで1回追加します。破傷風での追加接種は無用です。地域によってはポリオを含んだDPT-IPVでの接種を推奨。激しいスポーツをしたり、建設や園芸や農林業などに携わる方、そして山野を駆け巡り自然と接する機会の多い方は、10年毎に接種しておくことが安全です。その時はDPT3種混合または海外製のTdapで、0.5mlを追加します。破傷風単独のみは推奨しない。欧米豪先進国への渡航に際しては、Tdapと破傷風で始めます。百日咳の追加が必要。

【DPT3種混合（ジフテリアDiphtheria、百日咳Pertussis、破傷風Tetanus）について】 《DPT-IPV(+不活化ポリオ)の4種混合は渡航地域で切り替えます。注意は同じです》

副反応

接種後2日以内に、稀に（約3%）38℃程度の熱が出ることがあります。約20%の人で、2日以内に接種部位が直径5～8cm程度に赤く腫れたりすることがありますが、腫れは3～4日でひきますので心配はありません。ひどければ冷湿布するか、翌日に受診してください。極稀に接種部位の皮下に小さな“しこり”が残ることがありますが、1～2カ月程で自然に消えていきます。後遺症が残ることはありません。

有効性

子どもの頃に接種しているはずのDPT3種混合ワクチンの接種が不十分な人は、今回の1回の追加接種だけでは効果が期待できませんので、さらに1ヶ月後に追加接種することがあります。大切なワクチンですので、基礎免疫から計画しますので相談してください。追加接種から約10年間有効です。海外で生活する人や激しいスポーツをする人、園芸や登山など土に親しむ人は10年毎に追加接種しておいた方が安全です。追加は、DPTまたは輸入のTdapで大丈夫です。DPT世代に破傷風単独での追加接種は絶対にしないでください。必要量の5～10倍を接種することになりますし、肝心の百日咳には全く無効です。

【日本脳炎ワクチン（Japanese encephalitis：JEBIK V, Encevac）について】

副反応

2～5%の人で、2日以内に接種部位が赤く腫れて、微熱や風邪症状の見られることがありますが、2～3日で消失しますので心配ありません。極稀にギランバレー症候群という脳炎症状の報告がありますが後遺症を伴うことはまずありません。10年前にADEMという副反応が注目されましたが、因果関係が否定されていますので心配ありません。小児では稀に5～8%程度で当日に熱発することがありますが半日ほどで平熱に戻りますので心配ありません。熱性けいれんのある人は注意ください。

有効性

小児での初回接種は、通常は3歳（生後6カ月以上で可能）に4週間の間隔で2回、翌年に1回の追加接種をします。この追加接種は6カ月以上、3年以内で構わない。3年以上経過しても、早々に追加接種をして、さらに追加を検討する。この3回で1期[基礎免疫]が終了です。2期として9～12歳（1期完了後5～8年）で追加接種します。その後は約10年間は有効です。基礎免疫の確認できた成人は1回の追加でも十分ですが、最終から20～30年経過していれば2回、不明なら基礎免疫を終了するように計画する。

備考

仕事などで東南・南西アジアに滞在する方は、乳児・成人とも接種が必要。乳児も生後6ヶ月以上で定期接種できる。その場合の1期2回は3～6週間隔で、その追加は1年後ではなく、3才過ぎに計画すると有利。成人の基礎免疫の有無は母子手帳で確認します。

【A型肝炎ワクチン（Hepatitis-A:Aimmugen, Avaxim* ,Havrix,* Twinrix*）について】

副反応

接種時の痛みは多少ありますが、副反応はほとんどありません。極稀に微熱や風邪症状の見られることがありますが、2～3日で消失しますので心配はありません。

有効性

国産Aimmugenは、1回だけではあまり効果がありません。2～4週間後に2回目を接種し、2回目のあと3～5ヵ月（遅くとも2年以内）で3回目を接種します。3回で約10年間は有効です。渡航までの準備期間が少なければ2回の接種で出発し、2年以内に（一時帰国時など）追加接種してください。1ヵ月以内の短期の出張なら帰国後に2回目を追加します。短期でも3回目を忘れないでください。準備期間が2週間もなければ輸入ワクチンのAvaxim、またはHavrixで始めます。1回で6-12ヵ月、追加の2回で10年有効です。

備考

海外渡航者にとって大切なワクチンです。北米や西欧や豪州などは比較的少ないものの世界中で広く流行しています。特にアジア・アフリカ・中南米等に滞在される方や何度も旅行や出張に出かける方はきちんと接種しておいた方が安全です。輸入（成人）は2倍量含まれているので、6ヵ月から1年あけて2回で終了。接種回数や考え方が異なるので注意。国産のエームゲンは海外の小児用とほぼ同等で、より安全で有効です。海外で生活をする2-3歳以上の方にはお勧めします。10歳未満の小児は、海外に準じて2回法で接種しています。A型肝炎は途上国では最も罹りやすい疾患の1つです。なお乳児は感染しても発病しにくいいため不顕性感染として免疫ができます。途上国、特に郊外で生活している人や、70歳以上の日本人の多くは免疫を持っています。

【B型肝炎ワクチン（Hepatitis-B:Bimmugen,Heptavax II ,EngerixB* ,Twinrix*）について】

副反応

接種時の痛みはありますが、副反応はほとんどありません。極稀に微熱や風邪症状及び発赤腫脹が見られることがありますが、2～3日で消失しますので心配はありません。

有効性

国産も輸入も1回だけでは効果がありません。4週間後に2回目を接種し、2回目のあと3～5ヵ月（遅くとも2年以内）で3回目を追加します。3回まで接種して基礎免疫です。免疫が付けば、接種後約5～10年間は有効ですが、3回接種しても70～80%にしか有効な免疫ができないので、成人では3回目の接種時または終了後1ヵ月あるいは一時帰国時に検査を勧めます。血液や体液を介しての感染がほとんどですが、医療行為や患者との比較的濃厚な接触には注意が必要です。同居家族にB型肝炎抗原陽性（キャリアー）がいたり、医療関係者、留学生は接種しておいた方が安全です。30歳以上で2回接種後に渡航する人は輸入の混合ワクチンTwinrixを勧めます。2回でも80%ほど有効です。

備考

長期の海外渡航時やボランティア活動などでお勧めします。渡航までの時間が少ない時は2回の接種で出発し、2年以内に（一時帰国時など）追加接種してください。世界のほとんどの国では乳児期の定期接種になっていますので、渡航先で現地の保育園や学校に通学する場合にも必要になります。子どもにも全世界で必要なワクチンです。

【狂犬病ワクチン（Rabies：Rabipur, Verorab*）について】

副反応

約5%の人で2～3日後に接種部位が赤く腫れたり、微熱や風邪症状の見られることがありますが、2～3日で消失しますので心配はありません。乳幼児の約10%で接種当日に発熱することがありますが、翌日の昼には平熱に戻りますので心配ありません。輸入ワクチンではほとんどないので、優先的に使用します。

有効性

このワクチンは1回だけでは効果がありません。従来の曝露前接種は3回法〔0,7,21日〕でしたが、WHO方式で〔0,7～28日〕の2回法（基礎免疫）が推奨されました。その場合での曝露後接種は2回〔0,3日〕の接種が必要です。野生動物の研究者などリスクが高い人は従来のWHO方式の3回法〔0,7,21日〕に加え1年後に4回目を追加します。5-10年毎の追加も考慮します。基礎免疫なしでの曝露後接種は4回〔0,3,7,14～28日〕です。ハイリスク者の曝露前はRabipurかVerorabでWHO方式を推奨です。

備考

犬や野生の哺乳類（コウモリやサルなど）に咬まれた時は、傷口を中性洗剤で良く洗浄消毒し、基礎免疫が無ければ少なくとも4回の追加接種が必要です。2回以上の基礎免疫があれば曝露後も2回で済みます。咬まれたらすぐに外科的処置とともに、できるだけ速やかに曝露後接種を開始します。手遅れになると通常は約1ヵ月後（最長3ヵ月後）に発病します。発病すると致死率100%です。早期に曝露後接種を始めます。海外で理解できる形式の英文の接種記録が大切です。必ず指示通りに接種完了して下さい。仕事や旅行などで中南米・アフリカ・中東・インドシナ・インド・ネパール・中国等の奥地に長期滞在する人や野生動物と接触する機会の多い方は、WHO方式で2回の基礎免疫をつけて行く。地域によっては3回法を要求する。西欧・北欧・オセアニア・日本以外は注意したい。